

当地における主な犯罪手口とその防犯対策について

先般の安全対策協議会で参加者の皆様よりご要望のありました、当地における犯罪とその対策について、以下のとおりまとめましたのでご参考になれば幸いです。

なお、詳細については、「安全の手引き」をご参照下さい。

1 デリー市内犯罪発生状況（2016年）

（1） 犯罪発生件数：20万9519件（前年19万1377件より1万8142件増加9%増）

（2） 増加原因：窃盗被害の増加が主な要因

犯罪形態：空き巣などの侵入盗、乗り物盗、置き引き、その他窃盗の被害
凶悪犯罪（殺人・強盗や強姦など）はほぼ横ばい、強姦被害は、時間換算すると4時間に1件発生している計算。

2 日本人被害状況

大使館で把握した主な日本人被害について

① 車上狙い、②パンク盗、③ひったくり、④空き巣、⑤スリ、⑥その他窃盗

ー車上狙いー

【手口】運転手が車両付近で待機するとのことで、車内にバッグを置いたまま出掛け、運転手が車両から離れた際、窃取されるケース。

【対策】運転手が車両付近で待機するといっても、貴重品等が入ったバック・鞆は自身で保管することが重要。

ーパンク盗ー

【手口】バイク等に乗った不審者が車に近寄って来て、タイヤがパンクしていると指摘、運転手同乗者が車外に出て修理している間に、貴重品等を窃取するケース。

【対策】車のタイヤがパンクしていると指摘されても、その場では停止せず、車を安全な場所まで移動し、周囲に注意をはらい対応（ドアにはロックをかける。エンジンキー、貴重品は自分で所持する。）。

ーひったくりー

【手口】バイクに乗った犯人が後方から近づき、ショルダーバッグや携帯電話などを窃取。

【対策】ショルダーバッグ等は車道とは反対側に抱えて持つ。携帯電話を見ながら歩いたり、イヤフォンで音楽を聴きながら歩かず、周囲の環境音が聞こえるようにし、時々後ろを振り返る。人通りの少ない道は利用しない。

ー空き巣ー

【手口】高層マンションで留守中に掃除人と思われる人物に寝室においてあった金庫から、現金等を窃取。

【対策】掃除人に部屋の鍵を渡さない。金庫の暗唱番号は最初に設定された番号ではなく、

必ず変更（最低でも月に1度）する。

ースリー

【手口】発生場所の多くは、ニューデリー駅周辺。その他、混雑している観光地でバッグから金品を窃取。

【対策】常に貴重品の入ったバック等から目を離さないようにする。ショルダーバッグは正面に抱えるようにして携帯する。また、ジッパー部分に鍵を装着する。

※以下は旅行者がよく遭う犯罪被害です。インド国内を旅行される際にはくれぐれもご留意ください。

ーその他窃盗ー

○睡眠薬強盗

【手口】旅先で知り合ったインド人などと食事を共にした際、差し出された飲み物を口にした後意識を失い、所持金品を窃取されるもの。

【対策】日本人被害にかかる昏睡強盗やその他の窃盗被害の殆どが、訪問地で知り合った素性のわからない者が関与しているため、親しげに声を掛けてくる者などを安易に信用せず、相手に付いて行ったり、滞在先に招くことは絶対にせず、そのような者と接点を作らないことが身を守るためには重要。

○列車での盗難

【手口】・旅先で知り合った者に荷物を預けていたところ、盗まれたケース、列車内で荷物整理をしていたところ、バッグを盗まれたケース。

【対策】・安易に人を信用しない。夜行列車を利用する場合は、鍵のかかる個室等を使用する。荷物整理のみに気をとられることなく、周囲に配慮する。

3 交通事故

【交通事情】運転者のマナーが悪く、信号無視、無理な割り込みや追い越しなどが多々みられ、交通秩序が守られていない現状にある。

【事故処理】警察（デリーでは、「100」）に通報するとともに、相手の住所、氏名、連絡先や車両番号を控える。また、破損箇所を撮影し、証拠保全を図る。万が一、負傷者がいれば、必要に応じ病院搬送など救護措置を優先する。

※人身事故の場合 ー 早く現場を離脱すること（暴徒に囲まれる前に）。

インドでは事故そのものより「野次馬」の方が恐ろしいことがあります。不幸にして歩行者を轢いてしまったような場合には、野次馬が暴徒と化し襲撃される場合があります。負傷者の救援が優先ですが、群衆に囲まれそうになった場合には、救急車の到着を待たず、まず最寄りの警察署に駆け込む等の自衛手段を講じる事も必要です。

4 デモによる被害防止

【被害予防策】インドでは、しばしばデモ参加者が暴徒化することがあるため、人のい集、シュプレヒコールを行っている集団がいる、車両が混雑し道路封鎖が行われているなどの状況が認められた場合には、迂回などの避難行動をとり、現場から離れることが重要。

(了)